

平成29年度 川西市図書館協議会  
審議報告  
テーマ「図書館サービスの向上について」

## はじめに

川西市図書館協議会は川西市立中央図書館長の諮問機関として、これまで、地域の生涯学習や子ども読書活動推進の拠点としての図書館の役割、人口減少と少子高齢化の中での利用減少への対応、また、行財政改革の中での効率的な管理運営について、協議を重ねてきた。

今回の審議報告書は、平成28年2月に当協議会が提出した意見書「川西市民が望む図書館像とは」の内容とその後の図書館の状況を踏まえ、新たに様々な角度からの審議と他市図書館への視察等を経て、市民サービスの向上と今後の川西市立中央図書館の方向性についての提言をまとめたものである。この提言が、川西市立中央図書館の目指すべき姿を明確にし、川西市民の生涯学習や読書活動推進につながる施策の一助となることを願っている。

平成30年3月31日

川西市図書館協議会

## 1. 図書館の現状について

事務局からの統計報告、閉架書庫等を含めての館内視察より、次のとおり分析する。

### (1) 利用状況

#### 個人貸出と予約

- ・ 貸出者数・貸出冊数は減少傾向である。
- ・ 予約件数も減少傾向だが、館単位では県内上位である。ネット予約が約80%で、その割合は年々増加している。
- ・ 公民館への予約本配送は、年間4万冊前後で推移している。
- ・ 貸出利用者は60歳以上が多く、全体の40%を占めている。
- ・ 市北部の住民を中心に公民館図書室や猪名川町立図書館を利用する市民が多い。

#### イベントやボランティア活動への参加者数

- ・ 定例のイベント（おはなし会や上映会）への参加者は横ばいである。
- ・ 館としてスキルアップや活動継続の支援に努めており、ボランティア登録者は100名を超えている。
- ・ 子ども読書活動推進協議会事業での「ぼくとわたしのえほんてちょう」の作成や、午後6時からの市民交流イベント（「かわにしぶっくらぶ」）の開催など、新たな取り組みも行っている。

#### その他

- ・ 団体貸出の利用は配送サービスを中心に好評であり、館単位だと県内上位である。

## (2) 資料の収集・整理・保存

基本となる書架の整理が行き届いていない。数年前に比べると図書の横積みは改善されたが、「利用しやすい、探しやすい」レベルには至っておらず、計画的な整理作業の継続が必要である。整理作業が進まない最大の要因は、30万冊規模の図書館設計に対し、現在32万冊を超える状況となっていることである。

しかし、分館建設や移転が見込めない現状においては、資料保存には限界があり、思い切った除籍・廃棄作業が求められる。一方で市民一人当たりの蔵書数は県内下位であり、阪神間の自治体内でも蔵書数が最も少ない。除籍・廃棄作業を遂行すれば蔵書の充実度は下がるが、今後は館の方針・特徴として資料保存に重点を置くのではなく、他の側面でのサービス充実を打ち出していくしかないと考えられる。

## (3) 職員体制

他市と比較して非常勤職員の割合が非常に高い。正職員が日常の図書館業務及び非常勤職員の指導や労務管理に追われ、様々な課題の解決や利用者開拓に向けての情報発信、新規サービスへの取り組みに注力できていない。

## (4) 施設・設備

開館から27年が経過し、上記(2)でも指摘した保存スペースの不足に加え、改修を要する箇所が増加している。

## 2. 現状から見えてくること 川西市立中央図書館の強みと問題点

まず、「川西市立中央図書館の強みとは何か」を改めて考察すると、次の3点となる。

- (1) 市内公共交通機関の中心地にあり、来館者数(1日平均1400人)が多いこと。
  - (2) 多くの市民ボランティアを育成し活用していること。音訳や点訳のサービス、児童対象のおはなし会等は市民ボランティアが中心となって実施している。
  - (3) 公民館図書室や学校等への図書配送サービス網が定着している。
- これらの強みがある一方で、次のような問題点が見えてくる。
- (1) 来館者数は多いが個人貸出の利用にはつながっていない。
  - (2) 生活様式の変化や老朽化により、現在の立地条件や設備では市民が利用しにくい施設となっている。
  - (3) 新規サービスの実施、開館日数と開館時間の拡大には職員体制の見直しが必要である。

## 3. 図書館サービスの向上についての提言

現状及び強みと問題点を勘案し、図書館サービスを向上するうえでの具体的方策について、次のとおり提言する。

### (1) 探しやすい、見て楽しい魅力ある書架づくり

書架整理に尽力し、図書の横積みを早急に解消する。

誰にとっても探しやすい書架となるよう、案内表示等を工夫する。

知的好奇心を刺激する魅力ある書架づくりに努める。

### (2) 市民の利便性向上のため、開館時間と開館日数の拡大の検討

- ( 3 ) 現在のサービス充実と更なる向上のための人材確保と専門職の育成
- ( 4 ) 図書館の評価と図書館への関心を高める積極的な情報発信
  - 関連機関や教育委員会のみでなく、マスコミを含め、外部に対して広くPRする。
  - 学校司書や利用が少ない中高生層が求めている情報を的確に把握し提供する。
- ( 5 ) 学校等との連携強化
  - 学校園等を重要なサービスポイントとして積極的に支援する。
  - 大学や専門機関等と連携し、質の高いサービスを提供する。
- ( 6 ) 市全域にわたる図書館サービス網の構築
  - 分室化を含め、公民館図書室の効率的な管理運営と活用について関係所管と協議する。
  - 市内のイベント等へ積極的に参加する。
  - 分館建設や移動図書館の復活も含め、長期的な読書活動推進計画について検討する。
- ( 7 ) 電子書籍やデジタルアーカイブの導入
  - 来館しにくい市民へのサービスとして、操作性や利便性及び効果を研究のうえ、導入を検討する。
- ( 8 ) 図書館の管理運営方法の検討
  - 現体制での更なる充実と活性化はもちろんのこと、専門性や公共性を維持しながら、民間活力（指定管理者制度等）の導入も視野に最良の方法を見出すこと。

#### おわりに ～川西市立中央図書館が目指す姿とは～

平成3年の開館当初とは市民の価値観や暮らし、少子高齢化による利用者層の変化に伴い、図書館への要望も変化している。以前の図書館サービスの中心は、個人への貸出や予約、司書による調査相談業務が中心であった。川西市立中央図書館が現在の立地と規模を継続し、館内改装や特化した蔵書構成等での大きなイメージチェンジも図りづらい状況においては、飛躍的な貸出や予約の増加は困難だと予想される。図書館の基本は踏襲しながらもそれらに捉われすぎず、これまでの経験と強みを活かし、川西市立中央図書館が目指す姿として、

- 1．市内唯一の図書館として、市内全域を対象としたサービス網の中心的役割を担う
- 2．市民が気軽に立ち寄り、何か（知識や出会い、生きがい）を得られる場所となる
- 3．他機関や図書館間の広範な連携体制により、多様な資料を提供し市民の学びを支援することが望まれる。

課題は多いが、閉塞感から脱し、市民に愛され、市民が応援したくなる川西市立中央図書館となることを期待したい。

以 上